



菅会長より木戸孝明校長に目録を贈呈

竹田高等学校 創立120周年記念式典に参列

関東同窓会会長 菅 博敏(昭40年卒)

平成29年11月11日(土)竹田高校創立120周年記念行事に、関東同窓会を代表し出席してまいりました。

高校卒業以来、数度訪問したものの何十年振りに懐かしい母校の門をくぐり、まずは木戸学校長を表敬致しました。

関東同窓会として記念行事にあたり、高校(学生)に真に役立つ記念品の贈呈を考えておりましたが、学校側とも調整を重ね「アンプ一式」に決定し、その目録を学校長にお渡し致しました。

学校長から「遠くからわざわざ記念行事にご出席いただきとともに、素晴らしい記念品まで

頂戴し、真に有難く有効に使用させていただきます。関東同窓会の皆さんにくれぐれもよろしくお伝えください」との御礼の言葉がありました。

次いで体育館において、本校13年全生徒約450人、保護者、同窓生、広瀬大分県知事をはじめとする来賓の方々が出席される中、厳粛にして盛大に記念式典が開催され、学校長式辞・来賓祝辞においては、竹田高校の光輝ある歴史と伝統、卒業生の国内外における活躍の様子、将来に向けた同校の充実・発展の方策等に関するお話がありました。

また学校長の式辞の中で、7月に開催された関東同窓会の様子が紹介され、大変誇らしく嬉しく感じた事を付け加えておきます。

式典終了後記念公演として、桐朋学園芸術短期大学による音楽劇「瀧廉太郎物語」が約1時間10分に亘り上演され、劇団員の皆さんの迫力ある演技や演奏に一同時間を忘れ、鑑賞に浸ることができました。

上演終了後劇団員の皆さんに対し、生徒会長からの謝辞・花束贈呈が行われましたが、劇団員の人達も感動した様子で大変印象的でした。

何人かの生徒に感想を尋ねると異口同音に「このような音楽劇は初めて、大変面白く感動し

ました」との返事が戻ってきました。

式典終了後、学校長に挨拶にまいりますと、「素晴らしい音楽劇を鑑賞することにより生徒達の情操教育に大いに役立ちました。これも偏に関東同窓会のお陰であります」と重ねて感謝の言葉がありました。(以前、学校長が関東同窓会に出席され、音楽劇の縮小版をご覧になったことが今回の公演に繋がったものです)

夕方から「ホテル岩城屋」において生徒、同窓生、来賓等出席の下、祝賀会食が開催されましたが席上、学校長から関東同窓会に対して感謝状を頂くとともに、高校に対する「アンプ一式」の贈呈についても紹介がありました。

一連の行事を終え、在校生、高校・竹田市の関係者及び同窓生の方々と楽しく思い出に残る時間を共有することができ、幸福感でいっぱいになりました。

同時に、関東同窓会として創設の原点に立ち返り、母校の一層の充実・発展に寄与していくことの役割の重さを痛感した次第であります。

最後に、本記念行事を計画、実行されました竹田高校及び実行委員会他関係諸団体の皆様方に心から御礼と敬意を表するものであります。



大分県立竹田高等学校
関東同窓会報
第55号

発行者・会長 菅 博敏
編集者・委員長 衛藤 淳
発行所・関東同窓会事務局
〒194-0013
東京都町田市原町田4-17-20
電話 042-725-5018

<http://www.geocities.jp/kantohtaketa/>



記念式典の模様

母校創立120周年 記念式典から

大分県屈指の歴史を誇る竹田高校の創立120周年記念は昨年11月10日～11日、盛大に挙行されました。

◆ ◆ ◆
記念行事は昨年11月10日(金)、11日(土)の2日間にわたって行われました。

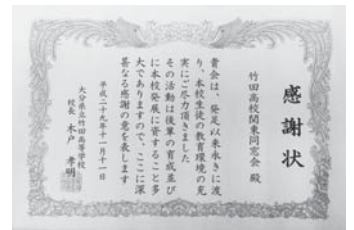
10日は記念行事の一環として、在校生のために社会で活躍する卒業生を代表して一水孝志さん(トレーナー・理学療法士)が講演を行いました。一水さんはまだまだ数の少ないアスレチック・トレーナー(日本体育協会公認資格)であり理学療法士の資格も持ち、スポーツ競技者などへの専門的な健康管理やリハビリトレーニング指導などの分野で活躍されています。在校生たちも大変興味深く聞き入っていたそうです。

翌11日には前ページで菅会長から報告のあったように記念式典が盛大に挙行されました。

特に記念公演として桐朋学園芸術短期大学卒業生の皆さんによる音楽劇「瀧廉太郎物語」が上演されたことは、私たち関東同窓会としては特筆すべき出来事でした。私たち関東同窓会の夏の総会懇親会に出席されている方は良くご存知ですが、本会創立30周年となった一昨年(2016年)に記念行事として公演されたのがこの音楽劇「瀧廉太郎物語」(40分バージョン)



音楽劇「瀧廉太郎物語」出演の桐朋学園芸術短期大学卒業生の皆さんと参加者の記念撮影



「アンプー式」を贈呈したことに対する感謝状

でした。あの時、私たちが感動した劇が、今再び、母校の在校生や同窓生たちの前で演じられた事は母校の歴史に貴重な1ページを記してくれることでしょう。

私たち関東同窓会としても、この120周年を期に関東を中心に同窓生を糾合していきたいながら母校の発展に貢献して参りたいと思います。

第32回竹田高校関東同窓会 総会・懇親会

【日時】2018年6月30日(土)

【会場】東京プリンスホテル

(地図は同封のチラシ参照)

- 総会 / 11:30～
- 柳亭市馬独演会 / 12:10～
- 懇親会 / 13:00～15:00



当番幹事代表
内藤 賢一
(昭52年卒)

2018年度関東同窓会
総会・懇親会ニユース
6月30日(土)に開催されます!!

当番幹事…昭52年卒・昭62年卒

年に1回の竹田高校関東同窓会の総会・懇親会が今年は6月30日(土)に開催されます。

今年の目玉は待望の我らが「柳亭市馬」師匠の独演会が実現したことです。真打の噺家として活躍する一方で、落語協会の会長としての重責を担っておられます。その多忙な中を私たち同窓生のために40分の高座を快く引き受けてくださいました。ぜひ皆さんのご参加をお待ちしています。

また今年は「ふるさとウルトラクイズ」と銘打って、標準語+大分弁の同時通訳付きクイズ・コーナーが予定されています。

さあ、今年もみんな、集まるでー!!

柳亭 市馬

豊後大野市緒方町出身、昭和55年竹田高校卒業、昭和56年初高座、平成7年国立演芸場花形演芸大賞、平成26年落語協会会長に就任。



関東同窓会の収支状況について

幹事長 都 俊生(昭44年卒)
総務委員長 羽田野耕一(昭46年卒)

この記事の作成時点ではまだ年度監査実施前ですが、総会当日には説明に十分な時間が取れませんのでこの紙面を借りて報告させていただきます。

平成29年度の特徴的な支出は、二つありました。一つは、関東同窓会の当番幹事が着用する法被を作製したことです。この作成費用は約18万円でした。従来受付窓口で使用していた法被は竹田市役所から借用していたのですが、数が足りないことや市役所の手を煩わせることのほか、関東同窓会独自の法被を作成しようという気運も高まり

役員会、幹事会で承認をいただき作製したものです。昨年の同窓会から使用を始めていますが、今年の同窓会当日には、当番幹事の着用している関東同窓会専用の「法被」に是非ご注目ください。

平成29年度の特徴的な支出のうち一つは、母校創立120周年記念として母校への寄贈品代金です。竹田高校に希望の品物をお尋ねし、持ち運び可能なアンプ一式を寄贈しました。校舎の中でも運動場でも使用できるものです。これらの費用は、維持会費収入から支出しています。

維持会費収入から支出しています。

平成29年度の総会収支は、総会会場ホテルの費用の増加を主な要因として約31万円の赤字でした。この赤字は維持会費収入により補填されています。これにより、次期繰越金は310万円となりました。

維持会費は、関東同窓会のコミュニケーションの場としての会報「臥牛」の作成費用と会員への郵送費のほか、記念大会での特別費用や母校への寄付事業などに使用されています。維持会員にまだ入会されていない方は是非、入会によるご協力をお願いいたします。

[平成30年度年間予算(案)]

項目	29年度決算	30年度予算案	備考
総会収入			
総会会費	1,720,000	1,760,000	会費会員：220名
総会祝儀	180,000	150,000	来賓/恩師計15名
小計	1,900,000	1,910,000	
総会費用			
ホテル支払	1,789,776	1,600,000	部屋/料理130万円
来賓土産代	31,011	20,000	川口自由堂、他
酒持込代	29,953	20,000	ワイン、日本酒は寄贈
イベント費	108,000	200,000	柳亭市馬師匠
印刷費(案内状)	162,000	160,000	印刷/送料(佐伯印刷)
通信費	38,924	40,000	事務局(返信ハガキ等)
備品その他	16,272	10,000	総会関連備品/送料等
その他諸掛	36,021	20,000	来賓交流、法被関連
小計	2,211,957	2,070,000	
総会収支	▲311,957	▲160,000	
維持会費収入	1,619,000	1,600,000	目標：320口
経常費用			
会報費	605,799	600,000	臥牛第55号/56号
会議費	266,522	270,000	
名簿費	4,000	4,000	維持会費納入依頼費用
HP費	6,480	6,480	サーバー費540円×12
幹事助成金	50,000	50,000	
組織活動費	64,684	50,000	出張経費、等
新規事業	179,496	200,000	H29年度：法被作製
事務通信費	547,712	197,000	
通信費	10,040	20,000	過去実績ベース
諸会費	110,500	100,000	他校同窓会交流
手数料	33,172	35,000	維持会費振込手数料等
荷造運賃	0	2,000	過去実績ベース
事務・消耗品	22,586	10,000	過去実績ベース
母校支援費	47,414	30,000	大志文庫寄贈、他
母校120周年事業	324,000	0	H29年度：アンプ寄贈
小計	1,724,693	1,377,480	
維持会費収支	-105,693	222,520	
雑収入	12	20	利息
寄付金収入	0	0	
合計収支	▲417,638	62,540	
次期繰越金	3,101,687	3,164,227	

竹田会 第67回懇親会

竹田会事務局 足立 真一

とき▼平成29年11月2日(木)
ところ▼東京ガーデンパレス

竹田会懇親会が11月2日、東京ガーデンパレス天空の間にて84名の出席のもと盛大に行われました。午後6時半、阿南貴恵アナウンサーの開会宣言に続き、元竹田会会長の里見菊雄様をはじめこの1年にお亡くなりになられた9名の物故者へ黙祷が捧げられました。

まず古庄幸一新会長よりごあいさつがあり「本日はご多忙の中、竹田会にご参加いただき誠に有難う御座います。竹田市からも大勢お越し下さり心から御礼申し上げます。これからも竹



竹田市商工会議所の皆さま

田のことを語れるようにこの会が栄え続きますよう務めて参りますので宜しくお願いします。」と述べられました。

続いてご来賓の野田良輔竹田副市長からごあいさつがあり、さらに竹田商工会議所の高山茂明副会頭からは地元から参加の内川様、板井様、服部様、甲斐様のご紹介とあいさつがありました。

そして特別講演として古庄里好様の紹介があり、タップダンスショーが始まりました。マイケルジャクソンダンスコンクールで優勝され、聞かせて踊って魅せるショーで映画演出やダンススクールと幅広く活躍されています。

会場が盛り上がったところで里見多一副会長の乾杯のご発声で宴が始まりました。懇親会の最中に、日本舞踊花柳流師範になられた若い(大学2年生)首藤匠様(芸名 花柳美匠治郎)が登壇され、来年7月8日大分市でのお披露目式案内とご挨拶がありました。

会場は、ミス鹿児島で極真空手全日本女子チャンピオンの歌姫前田留美様の登場でさらに盛り上がり、「竹田の春」を熱唱され、「セヤツ」の掛け声と共に板割から瓦割まで披露され一同非凡な技に驚嘆しました。

最後に「荒城の月」を皆で大合唱の内に閉会となりました。

クラス会・同期会

第2回竹田高校 関西同窓会

田部 修士（昭42年卒）

平成29年9月23日（土）大阪梅田の第一ホテル（丸ビル）の6階モナークにて12時より第2回の関西同窓会が開催されました。出席者は、来賓9名を含む総勢83名。

首藤副会長の開会挨拶により総会がスタート、一同で物故者への黙祷が捧げられ、続いて本田会長が関西同窓会再開の経緯



や会員状況の報告をされ、「今後100名の参加を目標として同窓会の運営を図っていききたい」と挨拶されました。

来賓として地元から駆け付けていただいた首藤竹田市長、後藤同窓会長による挨拶、木戸校長先生より竹田高校の近況報告をいただいたのち、本田会長より、新たに設定された会則、組織、事業計画等の説明がありました。

この後、休憩、集合写真の撮影を行いました。

一旦休憩の後、関東の菅同窓会長の関西同窓会への力強いエールをいただき、懇親会となりました。

アトラクションでは、大空亜由美（元響あゆみ）さんの「竹

田の春」など、力強い歌で会は盛り上がりました。それに続いて、一同校歌斉唱&会場一杯の大きな輪を作り、戦い勝てり美味旨酒を...でストームに移り懇親会は最高潮に達しました。

4学年が合同で 納涼船クルーズ

昭50卒〜53卒・

合同同窓会

鈴木（桑島）敬子（昭51年卒）

昨年8月30日に昭50年卒から昭53年卒までのメンバー18名で納涼船クルーズを楽しみました。違う学年でこんなにもそろったのは珍しいかもしれません。

昨年7月の総会懇親会の当番幹事を私たち昭51年卒で担当したのですが、前後の学年の方々にご協力をいただきました。総会懇親会も無事成功裏に終えることができました。

実はその際に当番幹事が独自会計で実施する「ふるさと物品販売」が好評で、けっこう儲かった...ました。そこでその軍資金（？）を活用して、ご協力いただいた皆さんにお礼を

しようということでした。一声かけただけでこんなに集まってしまうました。

納涼船クルーズは竹芝

8月末の残暑のなか、海を渡ってくる風に涼みながらの夜景は格別で、とても楽しかったです。

が、しかし、そんな周りの風景よりも懇談のほうが大盛り上がりでした。同窓会の定番、今だから話せる武勇伝（誰の？）とは聞かないでください）も飛び出して話題につきました。

もともと私たち昭51年卒はノリのよいメンバーがそろっているのか、何か企画するとすぐにサツと集まります。昨年は7月の総会懇親会のおとみんなで箱根に「大人の修学旅行」と称して温泉旅行をしましたし、中国・上海に赴任中の同期生を訪ねるツアーも決行しました。

特に昨年4月に、同期の田北秀彦くんが急逝したこともあって「会える時に会っておこう」という気持ちが強くなってきた



（昭50卒） 上野聖展、後藤修、仲井弘子
（昭51卒） 緒方嵩憲、飯田良典、右田淳子、鈴木敬子、奈良秀一、村瀬裕美、高橋ひとみ、内川和美、佐藤史紀、佐保幸寿、清水洋一、後藤祐治
（昭52卒） 堀紳一郎、麻生真紀、志賀辰也
（昭53卒）

【順不同】



船内は大盛り上がり

気がします。皆さんにもぜひ違う期との懇親会をお勧めします。もちろん私たちの集まりへのご参加も大歓迎します。ぜひ一緒に楽しみましょう！

ベトナム・カンボジア旅行記

相談役 松良 修一(昭34年卒)

昨夏、長女ファミリーの誘いで、孫含め5人でベトナム・カンボジア旅行を行いました。夏に東南アジア旅行とは、とやや心配しましたが、日本の猛暑に鍛えられた身には然したる問題はありません。

●ホーチミン市

第一印象はフランスが作った街。限なく街路樹に覆われた広大な市街地で、間口の狭い商店がびっしり並び、店の前の床凡にはおじさんが座っている。街はバイクの洪水で、道路を渡る時はバイクに乗っている人の目をしっかりと見ながら渡りきることが肝要。市内見学は早めに切り上げ、ベトナム統一解放戦で有名なクチトンネルを見学。

●クチトンネル

1954年、フランスがベトナムにディエンビエンフーの戦いに敗れ撤退し、ジュネーブ協定で南北ベトナムが誕生の後、米軍派兵が行われた1960年から1975年に構築された全長240kmに及ぶ広大な地下トンネル。米軍司令部の喉元まで掘り進めた。ベトコンはそのトンネルを縦横無尽に走り、地上に様々な仕掛けをし、トンネル内に煮炊きや寝るスペースもつ

くり、煙が地上に漏れないよう工夫した。

●アンコールワット

鬱蒼とした密林の中にあると想像していたが、そうではなく、程よい樹木に囲まれた広大な郊外に、夜明けのアンコールワットは遠く佇んでいた。先ず、驚いたのは敷地の広さ。東西1500m、南北1300m、幅200mの水



満々の堀に囲まれている。その中に3重の祠堂から成るワットがある。12世紀前半にアンコール王朝が現在の伽藍を構築。1632年、森本右近太夫一房が参拝している。汗だくで第3祠堂まで登ったが、傾斜40度に近い物凄い勾配で神のみが登ることが許される階段とのこと。アンコールワットはその周辺にも沢山の寺院があり、1日で全てを観るにはとても無理だが、まさしく世界遺産であることを認識した。寺院の回廊には顔の欠けた神獣がいくつもあったが、そのシルエット姿はなんとも優雅だった。

●トンレサップ湖―水上集落

乾季で琵琶湖の4倍、雨季で琵琶湖の27倍になる巨大な湖

で、200の村、10万人が水上生活をしているという。因幡の白兔に出てくる鯨の頭を踏む覚悟で、小船に飛び乗り出発。深淵な大樹の森と見まがう水の木立をぬけ、30分ほど目指す水域に到着。全ての生活必需品を周りにぶら下げたニッパハウスの水上集落が出現。水上レストランや小物店、学校もあり、小学生が小舟を操り下校していた。この水上集落の規模は世界最大とのことで、この世にこんな生活をしている大勢の人がいることに驚いた。

●ホイアン市

ホイアンは古都で世界遺産都市として登録されている。ナイトマーケットも有名。ベトナム料理はどれも美味しいが、特にフォー(肉団子入りのスープ)がよかった。ホイアンには日本人が1593年に建設した橋(真ん中に小さな寺院がある)があり、人気スポットの一つ。スイカの形をした沢山の提灯が夜の街を彩っていた。

●ハノイ市

ハノイの街は、ホーチミン市と同様街路樹豊かな、フランスの影響が強く残る街。植民地時代にパリのオペラ座を模して造られた市劇場やゴシック建築のハノイ大教会などがあり、首都の風格があった。

●ホアロ捕虜収容所

フランス植民地時代につくら

れた牢屋。フランス・コロニストがベトナムの抵抗青年たちを手枷、足枷で投獄した数々の房が遺されている。後に米軍の捕虜兵も投獄したという。

●ホーチミン廟

市の高台一等地にある広大な廟。巨大な建物に永久保存処置されたホーチミンが眠る。厳しい目付きの衛兵が建物をガード。緊張が伝わり、呑気なおしゃべりは許されない雰囲気。廟全体が建国の父の偉大さを天に向かつて放っている構図。

修学旅行生徒との 交歓会に参加して

岩男 暁子(昭62年卒)

昨年12月11日午前8時より、クリスマス装飾で賑わうオリエンタルホテル東京ベイにて、竹田高校2学年の修学旅行生と



同窓会メンバー(手前)と生徒の交歓会

●水上人形劇

昔農民が始めたという水上人形劇を見学。旅行者に大変な人気で、客の殆どが西洋人。舞台の中央に水を張った浅めのプールがあり、そのプール脇の高所に、笛・太鼓・歌い手が座り、太公望、魚、村娘、竜、鳳凰とおぼしき人形が、演目毎に、激しく水上を跳ね回り、演技する。その動きのあまりの見事さに、潜水服を着た人間がプールの底に潜って操っているのではと思ったほどでした。

関東同窓会会員の交歓会が開催されました。

昔会長を筆頭に5名の参加者が、故郷や母校の思い出、そして関東に来てからの生活、仕事、子育てなどの経験を語りました。昔と変わらぬ制服姿を見ながらの語らいは感慨深く、卒業から何十年と経っている今でも、瞬時にあの頃に戻り、話つきませんでした。

この交流会が後輩の皆さんにとって、故郷の良さを再確認され、これから未来に誇りをもって旅立つお手伝いになれば幸いです。

最後になりますが、時代は移っても変わらぬ後輩の皆さんの礼儀正しき、素直さ、眼差しに心打たれました。これからも応援してまいりたいと思います。



窓生
同登場①

東海道五十三次を歩く(後編)

「相模路・駿河路」

服部 恭一(昭34年卒)

東海道は相模路、駿河路、遠州路、三河路、近江路に大別される。道中を思いつくまに紹介する。(各宿のkmは日本橋からの距離)

◎相模路(日本橋・箱根)

日本橋、江戸の旅は、お江戸

日本橋七つ立ち、でまだ暗い午前4時に発つのが慣わしだったが、私は10時に朝倉文夫の兄渡辺長男「獅子麒麟」の橋飾りと五街道の起点「日本国道路元標」を眺め、弥次喜多道中を気取って出発した。銀座通を過ぎ徳川家の菩提寺「増上寺」に立ち寄り、田町へ、勝海舟と西郷隆盛の江戸開城談判が行われた薩摩藩屋敷跡の会見場碑の前で江戸を戦火から救った会談に思いを馳せた。高輪大木戸跡から赤穂浪士の泉岳寺に立ち寄り、水戸浪士に襲撃された元英国領事館の東禅寺を過ぎると旧東海道は八ッ山橋を渡り北品川商店街を通り、①品川宿(8km)、江戸の玄関口と言うより歓楽街の趣が強く「北」の吉原「南」の品川と呼ばれた。広重の絵では海岸が目前に迫り風光明媚の地だった。品川を過ぎ南大井の「鈴ヶ森刑場跡」へ。ここで八百屋お七、丸橋忠弥、白井権八等が斬首され、弔いの墓

石が残っている。六郷川(多摩川)の渡しから、②川崎宿(18km)を過ぎ生麦に至る。文久2年「生麦事件」から薩英戦争となり英国の巨大な軍勢力を知った薩摩は一気に薩長同盟から討幕へと日本の近代化へとかけ取りがなされた。③神奈川宿(27km)は、横浜駅手前の台地の上にあった。広重の絵にある茶屋「田中屋」が料亭として今も営業している。横浜はペリーやハリスにより開港された文明開化の地、その後対岸を埋立て現在の横浜の中心市街が形成された。

④保土ヶ谷宿(32km)から、⑤戸塚宿(42km)は、旅の一日目の宿泊場所、武蔵と相模の国境。⑥藤沢宿(48km)遊行寺を通り右に大山を眺めながら進むと馬入川(相模川)に行き当る。⑦平塚宿(62km)花水橋を渡ると右手に高麗山の山並みが美しい。⑧大磯宿(56km)西行法師が「心なき身にも哀れは知られけり鴨立沢の秋の夕暮れ」と詠んだ鴨立庵がある。近くには伊藤博文、吉田茂等の別荘が点在する。地福寺には島崎藤村の質素でモダンな墓があり、旧宅が残されている。⑨小田原宿(81km)箱根峠越えを控える多くはここで宿泊した。箱根八里とは小田原宿から

箱根宿までの4里8丁と箱根宿から三島宿までの3里28町を合わせた距離を指している。小田原から須雲川沿に上り湯本手前の三枚橋を寄木細工の里方面に折れ畑宿に至る。道は箱根駅伝のコースより厳しい旧箱根街道に入り急峻な坂道が続く。女転ばし坂、割石坂、西海子坂、榎木坂、猿滑坂の天下の險を滝廉太郎の「箱根八里」を口遊みながら息を切らし踏破。甘酒茶屋を過ぎ芦ノ湖辺りからは下り坂。石畳の道が続く芦ノ湖の辺に箱根権現の社殿があり元箱根に着く。富士山の眺めが絶景、昼なお暗き杉並木の道を進んで関所に到着。⑩箱根宿(97km)「入り鉄砲に出女」の調べが厳しかった関所を通過し、西坂から駿河路に入る。

◎駿河路(三島・島田)

⑪三島宿(112km)三島民謡の、富士の白雪やノエトの農兵節を口遊む。源頼朝が崇敬した三島大社を参拝し、⑫沼津宿(118km)に。街には敵の侵入を防ぐ

枅形の道路が今も多く残る。⑬原宿(124km)白隠禅師誕生の地、住職を務めた「松蔭寺」を参拝。⑭吉原宿(136km)ももとは富士を眺める田子ノ浦に面していたが2度の高波被害で北へ大きく迂回しており富士が左側に見える。⑮蒲原宿(147km)広重の名作「夜の雪」で知られる宿場、雪はめつたに降らないらしいが宿場の面影が今も色濃く残る。⑯由比宿(151km)西に薩埵峠を控え賑わった。由井正雪の生家と本陣跡に「東海道広重美術館」がある。薩埵峠は山塊が海に接する地点。「望岳亭」から東に富士、南に伊豆の峰々、西に三保の松原の眺めは絶景。⑰興津(160km)現静岡市。⑱江尻(165km)現静岡市清水。江戸と大阪を結ぶ海路の寄港地として発展した清水湊の宿場。次郎長、石松、大政小政が眠る梅陰寺、家康の墓所久能山に立寄る。⑲府中(175km)今の静岡市駿府城がある駿河の国府、家康が晩年を過ごした。最後の將軍徳川慶喜が隠遁した「浮月楼」など徳川縁の史跡が多く残る。「安倍川もち」を食す。⑳丸子(181km)芭蕉の句「梅若葉まりこの宿のころる汁」を今も商う丁子屋でころる汁を食し元氣を出し宇津ノ谷峠を越えて、㉑岡部(189km)を通り、㉒藤枝(196km)へ。田中城の城下町、町並みは市街化で往時の面影はない。家康は鷹狩りの途中に田中城を訪れ興津鯛の夫婦羅を食べ体調を崩し75歳の生涯を閉じたと言われている。㉓島田(205km)宿の西端を流れる大井川は東海道一の大川で橋も渡船もなく徒渡しのため川留めになると客があふれ宿場は大いに賑わった。駿河路の最後に、明治に架けられた世界一の木橋・蓬萊橋(897m)に立ち寄る。旅はまだ続きますが、こゝらで一旦筆を置かせていただきます。(完)



窓生
同登場②

私の釣り年代史(中編)

氏田 章治(昭37年卒・旧姓・植木)

白神山地(溪にまだ雪渓)

◎四十代の釣り
遠出も多くなつた。下北半島、白神山地、佐渡島、岐阜、富山などイワナを求めて遠征した。

車止めから一時間ほど歩き漸く、イワナの一匹と出会う。後は淵ごとに釣れる。直ぐ傍の川岸の笹藪が、ガサ





同窓生紹介

ジュエリー・ビジネスに情熱をかけて 世界を駆け巡る

昭和50年卒・仲井弘子さん



仲井弘子さん(写真左)と、
右は昨年、昭和50年卒・53年卒
の合同同窓会時で一緒に
内川かずみさん(昭和51年卒)。

中央大学を卒業して、大手百貨店に宝石を卸している会社に就職しました。

それから、ベルギーのアントワープに行き、ダイヤモンドバイヤーを約6年間続けました。その間は、毎月のようにイスラエル1週間、ニューヨークに1週間、アントワープに2週間という感じで、ダイヤの仕入の為に出張していました。某大手百貨店からたくさんの注文が入っていました。まさにバブルの絶頂期でした。

29歳で結婚、会社を辞め、翌年には息子が生まれました。育児の為に仕事を辞めていましたが、貯金も無くなり、それで、ダイヤモンド取引をやっている昔のユダヤ人の友人に、ダイヤモンドを東京で売りたいと電話したら、彼等はすぐに日本にやって来て、日本でダイヤモンドを売るようになりました。彼等がベルギーに帰るときに、私にダイヤモンドを何百個も置いていきました。びっくりでした。金庫もないボロいアパートに住んでいたの、心配でした。早く売ってお金に変えなければ! って思い、息子をおんぶして片手にダイヤ、片手にオムツを持って売りに行きました。そうやって私の小さな会社がスタートしました。ジョナサン株式会社と言います。

8年間ぐらいいは、ダイヤモンドもよく売れましたが、1995年頃にたくさんのダイヤモンドを扱う宝石会社が東京で倒産しました。バブルの崩壊です。うちの会社も何百万円も、売上金を回収出来ず損をしました。私はダイヤモンドの商売の恐ろしさに、気が付きました。

それからは、毎日安心して眠る事ができる楽しい今の商売に、方向転換して行きました。それは、身近な、楽しいジュエリーです。主に安価な100円からのジュエリーと天然石を主力としています。第1号店をオープンしたのが1997年、卸専門店のマーヴェルピコを御徒町に、その翌年に浅草橋にジェニユイン アン店を、そして銀座の中央通りに、ジェニユイン銀座店をオープンしました。ジェニユインとは、純粹・本物を意味します。ダイヤモンドから 私の仕事が始まったので、やはり私は 本物だけにこだわりました。



ジェニユイン銀座店

その後、私の大好きだったニューヨークに、1999年に最初のお店を出しましたが、2年後に2001年の9月11日の同時多発テロが起きました。ものすごいショックでした。

それからは、売れなくなり、赤字の毎日が数ヶ月続きました。落ち込んでいた私を支えて励ましたくれたのは、ニューヨークのスタッフでした。`悲しいのは私達だけじゃないよ。ニューヨーク中の人が悲しいんだよ。頑張ろう!。` って。そして2003年にニューヨークの6thアベニューに2番目の店を出しました。

その後も店をたくさんオープンしたり、閉店したりしました。現在ニューヨーク店を含めて、小売店のジェニユインが15店舗、卸店のマーヴェルピコが4店舗 計19店舗を運営しています。

ジョナサン株式会社を設立して、もう31年になります。今振り返ると、あつという間の31年だったと思います。たくさん人々に助けられて感謝の気持ちでいっぱいです。現在、61歳になりました。周りの同級生は定年退職をして、ゆとりある幸せな日々を過ごしているようです。そんな友達を見てると私もこれからはゆっくり暮らして 優雅に楽しい毎日を送りたいなと、楽しみにしています。誰か、遊びに行く時は誘ってくださいね。

ガサツと揺れる。

「熊だ!!!」

会津一ノ戸川支流早稲谷川の出来事である。

◎五十代の釣り

このフライフィッシングと我が師の釣りに対する姿勢、考え方が釣りを通した自然への思いをより深くさせた。釣った魚を持って帰ることが少なくなっていた。そつと流れに返すのである。自分を楽しませてくれたこんな溪流を子供たちにもそして、ずーと続く世代にも、楽しんでもらいたい。頭を溪流に突っ込みガバガバ飲めるきれいな水、溪流、溪魚、川、自然を残して

やりたいと切に願う。

全ての自然の恵みを絶やさないうようにしなければならぬ。しかし、自分の力は非力。何をどう動けば自分の思いを形に出来るのか? 定年後の人生をどう社会に貢献したらよいのか? そんな思いが日増しに強くなっていく。

◎六十代の釣り

第二の故郷秦野市が募集した「市民が選ぶ残したい景観策定委員」に参加したのがきっかけとなり、同じ思いを持つ人たちが繋がった。定年前の忸怩たる思いが形になったのである。(次号に続く)

平成元年以降の卒業生を

「探しています」

探してください」

高橋敏政組織委員長
(昭46年卒)

会員の皆様、平成元年以降の卒業生の登録数は、極端に減少しています。

このままで推移すれば、例年の懇親会を担当する当番幹事がいない、若しくは前後の当番幹事が共同で担当するなどの方策を考えなくてはなりません。いやいやもっと重要なことは、関東同窓会の盛衰にもかかわってくるということです。

どうか皆様、この現状をご理解いただき、クラブ活動の先輩後輩、親戚縁者、故郷の近所の方の状況など折に触れ、情報を獲得いただけるようお願い申し上げます。

そして獲得した情報は、学年幹事、または小生に連絡いただければ幸いです。

組織委員長 高橋 敏政

携帯：090-5173-3020



関西豊後竹田会 田部 修士 (昭42年卒)

平成30年の関西豊後竹田会が2月24日11時30分より梅田のフェニックスタワー地階スー

計報

慎んでお知らせ申し上げ、心からご冥福をお祈りいたします。

物故者御芳名

甲斐 師様 (昭17年卒)

平成28年11月1日没

平田 真一様 (昭27年卒)

平成29年2月6日没

佐藤 乾様 (昭17年卒)

平成29年2月14日没

※事務局へ連絡をいただいた方々を掲載させていただきました。

松岡 靖雄様 (昭29年卒)

平成29年4月18日没

工藤 孝昭様 (昭43年卒)

平成29年4月18日没

佐竹 義久様 (昭26年卒)

平成29年6月12日没

里見 菊雄様 (昭26年卒)

平成29年9月2日没

伊藤 節子様 (昭39年卒)

没年月日不明

津下 渥子様 (昭34年卒)

平成30年3月10日没

※事務局へ連絡をいただいた方々を掲載させていただきました。

バードライ梅田にて開催されました。我が竹田高校の関西同窓生も多数参加しましたのでご報告します。

竹田市の紹介DVDが放映される中、司会の佐藤正さんのご発声で総会がスタートしました。来賓として野田副市長、朝来市の市長の代理として藤岡勇様からご挨拶をいただき、続いて司会よりご来賓の紹介と衛藤代議士からの祝電が披露されました。

本日は、来賓12名、会員93名、総勢105名が出席されました。この後、司会者は古沢健三さんに交替、大分県大阪事務所の御手洗祥子次長のご発声で乾杯し、懇親会がスタートしました。今回のイベントは、歌手・関島秀樹さん(荒尾市出身)の歌

謡ショウと恒例のペリダンス(白杵市出身MAYUKO代表)で会場は盛り上がりしました。フェリーさんふらわあよりご提供された車付き乗船券等のお楽しみ抽選会で会場はさらに盛り上がり、予定の時間が迫り全員で荒城の月を合唱しました。

歓談の間、司会の佐藤さん、古庄さんの必死の呼びかけで関島さんのCDの売上も上々で、中締めとなり兵庫神戸大分県人会・箱崎会長の発声で一同万歳を三唱しました。

最後に、上原会長が挨拶され、来年の盛会を祈念し、全員で記念撮影をして散会となりました。

皆さん名残が尽きず、それぞれ仲間と連れ立って二次会へと別れて行きました。

【寄稿のお願い】

会報誌『臥牛』は皆さんからの寄稿によって構成されています。皆さんの寄稿をお待ちしています。※スペースには限りがあり、ご希望通りに掲載できないことがあります。あらかじめご容赦ください。

連絡先 〒181-0003 東京都三鷹市北野2-3-22
広報委員長 衛藤 淳
TEL/FAX 0422-43-7762 携帯電話 090-9159-7231
Eメール etoj@hotmail.com

※日中は電話に出られないことがありますので、メッセージをお願いします。